



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2012年10月-11月号

Vol.28

支援者の皆様へ

F V I の 3 年 目

いつも尊いお祈りとご支援を心から感謝します。涼しくなってきたこの季節、皆様はいかがお過ごしでしょうか？私は今年前半、慌ただしい日々を過ごしましたが、8月、9月は比較的東京にいる期間が長く、夫婦での新しい生活リズムを築きつつあります。2010年9月にF V Iの創立に関わり、気が付くと働きは3年目を迎えていました。皆様のお祈りとご支援のおかげでここまで継続することが出来ました。心から感謝します。新しいことを始めることは慣れないことが今でも多くあり、特に東日本大震災発生以降の福島での震災支援活動では「非日常モード」が断続的に続き疲労もたまりました。

「危機の時代」に想うこと

しかし、それは私に限った特別な経験ではなく、「危機の時代」とも呼べる今の世界を生きる皆様にとっても、共通して言えることなのではないかとも思います。2008年に仕事を辞めて海外の開発途上国に行くことを決めたときは、「安定した日本社会」を離れ、貧しい国の人々から学びお仕えしたい、という心がどこかにありました。それから4年半が経過した今、世界も日本も大きく変化しました。当時「貧しい国」と私たちが呼んでいた国々の人々が直面しているのと同じような不確実性の渦の中に、今私たち日本人も置かれつつあります。

「だから、この時代に生まれた」

「世界と日本の間に橋を架ける」ということは物理的に移動して海外の人々と交わったり、海外に支援金を送ったりすることだけではなく、今、自分がいる場所にしっかりと踏みとどまり、している「仕事」を深めていくことでもあるという確信を持つようになりました。自分が足元で深めた実践の分だけ海外（国内）の草の根の実践家と深くつながることが出来るのです。私たちは「魂の地下水脈」で



つながっているかのように。正直に言いますと、働きを始めて以来私は時々、「自分は一体ここで何をしているんだろう？」と思うことがあります。辛い時期には、逃げ出したくもなります。しかし、神様に「YES」と言い続けることで、実践を深め、自分の内側をえぐられ、変えられると信じています。今していることがやがて実を結ぶ日を信じて、F V I の運営、海外との相互学習、足元の実践、全国でのトレーニングなどの、私に与えられた役割を続けていく勇気を、神様に祈り求めています。全国の皆様の「現場」での働きのためにも日々祈っています。私も皆様と共に、危機の時代に、神から与えられた人生に「YES」と言い続け、それぞれの召しを果たし「だから、この時代に生まれた」と証するものとされたいと願います。

どうか今後も私たち夫婦のために続けて祈りお支え下されば幸いです。

活動報告

奉仕と活動 (2012年8月～9月)

皆様の祈りに支えられ次の場所で働きをさせていただきました。関係した方々に感謝いたします。

月日	内容	場所
8月1日	シード・プロジェクトコーチング	愛知県豊橋市
8月19日	ビジョン・カンファレンス	伊那福音教会
9月4日	ジョナサン・ウィルソン師を囲む集い	福島県郡山市
9月8日	福島未来会議2 同窓会	福島県郡山市
9月5、6、7日	被災地聞き屋ボランティア	福島県郡山市、いわき市、会津若松市
9月11、12日	被災地聞き屋ボランティア	岩手県陸前高田市、釜石市
継続的に	F V I 事務局の働き	練馬、立川、吉祥寺など各地

1年半の被災地との関わりで私が学んだこと

9月3日～13日、F V I のボランティアチームで福島県、岩手県に「聞き屋ツアー」に行きました。3月に開催した福島未来会議2の出席者で被災地での聞き屋を始めたいという方々をフォローアップすることが目的でした。今回は福島県内の仮設住宅3か所、岩手県沿岸部の仮設住宅や駅前などでも聞き屋ボランティアをして、仮設で生活している方々や被災地に住む方々のお話を聴かせていただきました。

震災発生後、東北に移り住んで支援活動をする友人たちや、福島県民として多くの避難者たちを物的精神的に支援し続けている教会や個人の取り組みに励まされるとともに、被災地での聞き屋ボランティアを通して多くのことを感じ考えさせられました。

震災発生から1年半の9月11日14時46分、私は陸前高田市の仮設住宅で聞き屋をしていました。市役所のサイレンに合わせ黙祷をし、神に祈りを捧げながら、震災発生後1年半の支援活動を通して私が神から教えられたことを一度言葉にまとめるように促されたように思いました。1年半のうち合計80日間東北で過ごし、被災された方々や支援活動をする友人たちの話を聴き、現場の働きを観させていただいて、ここで学んだことはこれからの日本で生きていくヒントを孕んでいると感じたからです。



郡山市内の仮設住宅での聞き屋ボランティア

震災発生直後、「バカの壁」の著者の養老孟司氏がこう言いました。「今我々が目にしている現実、問題ではなく、答えである。」この言葉は1年半の間、私の中に響き続けました。日本の近代史が70年区切りで大きく変遷してきた、という人もいました。明治維新から終戦までが70年、終戦から東日本大震災までが67年（約70年）です。もしこれが本当だとしたら、2011年は後に、「ポスト戦後」の元年と言う風に言われるのかもしれませんが。

ある人が戦後の日本をけん引してきた価値観は「合理主義」「個人主義」「生命至上主義」である、

と言っています。これは私の生きてきた実感とも合致します。経済合理性を追求することで生活を豊かにし、しがらみを断ち切ることで個人の自由を謳歌し、超越的な使命よりも生活を保守することを至上の価値としてきました。67年の平和と繁栄が続いた2011年、東日本大震災は起こりました。福島には原発事故と放射能の恐怖、離婚や墮胎などの関係の破壊の問題が横たわっていました。これに対し岩手沿岸部には、「日本のどこにでもある問題」が、濃縮された形で存在していました。仮設住宅は高齢者施設の様相を呈しており、被災地支援は緊急支援から「過疎化対策」へとシフトしていくように見えました。地震、津波、原発事故を通して、新しい問題が出現したのではなく、日本が潜在的に抱えていた問題が可視化したのです。震災によって時間が圧縮され、私たちが先送りにしてきた問題（問題の無自覚）の「結果としての答え」が被災地にあるように私は感じます。



震災直後に、津波で何もかも流された荒地を「戦後の焼け野原」に重ね合わせて語る人が多くいました。私も映像や実物を見てそのように感じました。しかしこの「焼け野原」を、克服し復興すべき「問題」として見ている限り、私たちはまた同じような70年を繰り返すか、もしくはもっと悪い形で結果を刈り取る恐れさえあります。震災から1年半の被災地の姿は「合理主義」「個人主義」「生命至上主義」を無上の価値とした社会が出した、圧縮され、濃縮された形での「答え」である、という認識からスタートし、新しい価値を創出していくことが、私たちの「世代的な責任」であると感じます。

神を信じるキリスト者である私は、以下のことを大切に生き、FVIや教会を通して社会に啓発し具体化していくことを私の大切な使命のひとつと考えます。

■合理主義を超えた「生きる意味」へ：なぜ働くのか？なぜ結婚するのか？なぜ生きるのか？という理由を、経済合理性を超えたところ（聖書的世界観、人間観）から定義しなおす。

■個人主義から「隣人愛」へ：共同体が解体した社会において、「隣人への関心と主体的な愛の行動」を通じたつながりが生まれるように、生き方で現す。

■生命至上主義から神への畏れへ：命以上に大切なものがある、という価値観は、超越的な神への畏れを通してしか健全に表現されず、それが無い社会では国家主義や過激なイデオロギー運動に代替されます。「だれを恐れるべきか、教えよう」（ルカ 12:5 新共同訳）とイエスは言われました。人生の目的は無事に長生きすることではなく、死後に創造者の前にどのように評価されるかだ、と信じ、生きるモデルが必要です。

被災地には「災害」と言う概念が宙に浮いているのではなく、傷つき落ち込んでいる具体的な個人が大勢いる、というのが本当の姿なのかもしれません。そう考えたとき、特別なことをしなくても、上記のような価値を信じ「地の塩」として置かれた場に生きることが、結果的に被災地の誰かを励ますことにつながり、またいつか訪れる次の大災害へのソフト面での備えになるのではないのでしょうか。

祈りの課題

◇11月5日のF V Iの総会での決定が、神の意志を反映したものとなり、F V Iが神のなされたいことの必要な一部であり続けることが出来るように。

◇私たち夫婦が神の前にへりくだり神と近く歩むことが出来るように。

◇神の国のために良い出会いが続けて与えられるように。

◇働きを継続していくための必要（身体的健康、知的訓練と資源、霊性、経済面）がすべて満たされるように。

今後の予定

月日	内容	場所
10月8～10日	世界食糧デー登別大会	登別市（北海道）
10月14日	礼拝でF V I報告会	グレースコミュニティ（札幌市）
10月17、18日	弘前学院大学で講演、授業	青森県弘前市
11月7日	幼稚園でのお話し	コドモの園幼稚園（世田谷区）
11月21～26日	沖縄巡回と友人の結婚式出席	沖縄本島（ベタニヤチャーチなど）
随時継続的に	国内啓発活動およびフォローアップ	国内各地
随時継続的に	F V I事務局の働き	練馬など各地

連絡先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」

Email shun@karashi.net ブログ URL : <http://ameblo.jp/shunjinnai-kingdomcome/>

支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援にご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

*ブログから Prayer Letter をダウンロードくださった方で、振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。振込用紙、ご案内を送らせていただきます。

*2カ月に一度、プレイヤーレターに2枚（2か月分）お送りさせていただく振替口座の振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。

*Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。